

東京教区時報

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: comm.tko@nsk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

第1029号
2007年3月25日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 伊藤裕元

3月の代祷・信施奉献先
聖公会生野センターのため(4日) 教区青少年活動のため(いのちの電話の働きのため キッドスクール(幼稚園)のため
大斎プログラム6
東京聖テモテ教会 イースター・ウィジル(4月7日(土)18時。新火の祝別) 洗礼・堅信式、聖餐式(植田教区主教)
浅草聖ヨハネ教会 光の礼拝(4月7日15時)
東京聖三教会 イースター・ウィジル(4月7日17時)

今週・来週の予定		3月25日～4月7日	
25(日)	大斎節第5主日 下町G教会協議会(神田) 城南G教会協議会 (聖アグネス) 山手G教会協議会 (聖マーガレット)	司祭内田茂一 伝道師岡本 房子 司祭恒太郎 司祭岸 本隆一 司祭伊藤堅逸 司祭 林五郎 司祭宿谷栄 主教後	3月28日(水)午前10時半 主教座聖堂 説教 司祭米村路三
27(火)	銀座朝祷会 聖職養成委員会	司祭	3月8日 加藤高太(43) 3月10日 高谷 昌(84) 3月10日 池田キクエ(80) 聖アンデレ
28(水)	教役者レクイエム(主教座) 山手G牧師協議会 (聖マーガレット) 教区企画室 フェスティバル実行委員会	司祭	聖パトリック
29(木)	信仰と生活委員会		聖アンデレ
30(金)	正義と平和協議会運営委員会		聖アグネス
4月	1(日) 復活前主日 主教巡回 聖ルカ礼拝堂 教区合同堅信式(主教座) 5(木) 聖木曜礼拝(主教座) 6(金) 受苦日礼拝(主教座) 7(土) 聖土曜日前宵礼拝(主教座)		

掲載記事の転用可(事前連絡要)

もとよりわたしは盲学校の出身ではあつたのですが、この数年めつきり視力が落ちてしまい外出の際には白杖を携帯しなければならなくなりました。その間の不安は夜も眠れず、眠ったところで碌な夢は見ません。
これから先どう 《恵みに生かされて》
なってしまうのだろつという毎日でした。見えなくなるといふこと共に精神的苦痛は荷物とことさら重くしてありました。それから先は自分との戦いでした。わたしよりも深刻な状況におかれている方が沢山おられることは頭では分かっているのですが、やはり自分のことが優先して失明の不安が心から離れず白杖なんかつきたくない、他人なんか道に道を聞きたくない。書き立てれば数限りなく迫ってまい

りました。ある日曜日夕の礼拝時のことでした。詩篇を読み上げていると次のような言葉がわたしの心に留まりました。主は正しい人の叫びを聞き、悩みの中から救ってくださる。主は悲しみ嘆く者の近くにあらわれ、失意の人を支えられる。『詩篇34・17』18『祈禱書』
自分を見れば決して正しい者ではない。しかしその時、正しい」という意味を悟つたように感じました。わたしのできることはただ一つ、神に寄り頼むこと、そのとき霧が晴れる思いがしました。弱い私ですからこれからも負けそうになるかもしれません。がそのつど神が共にいてくださることを心して生きたいと決心しています。今はそこに安らかな喜びを味わっています。
(聖アンデレ教会勤務)

苦しみは喜びに

執事

小野里俊一

その時、正しい」という意味を悟つたように感じ

工教区協働委で

現地ボランティア募集

今夏の約1ヶ月間教区・エルサレム教区協働委員会委員長・神崎雄二司祭(では、同教区との交流を現地での生活と活動を通じて深めようと、ヨルダンのアンマン郊外にある施設で奉仕活動をするに、ボランティアを募集している。期間は8月28日～9月22日。視聴覚に障害を持つ児童・青年百20人の共同生活施設での掃除、塗装、畑の世話、日本文化の紹介、入所者との交流。募集人員は10人程度で性別・年齢・教籍は不問。参加費およそ30万円。申込締切4月15日。詳細は配付中の募集要項を参照。照会は神崎司祭または教区宣教主事へ。

【教区・聖なる三日間の礼拝】

*会場＝聖アンデレ主教座聖堂
・聖木曜日(4月5日) 11時
聖油聖別の聖餐式・司祭の約束の更新
・聖金曜日(6日) 12時～15時
受苦日礼拝 司式＝山野繁子
司祭 説教＝大畑喜道司祭
・聖土曜日(7日) 18時 復活前宵祭・復活ろつそくの礼拝
洗礼の約束の更新

聖公会神学院卒業生(東京

教区・3月17日) 倉澤一太郎、ジョン・ストーゼンバック、卓志雄、中村淳各聖職候補生(勤務先＝4月人事公示・掲載済)
聖公会神学院入学礼拝 校長代行・加藤博道主教(東北)ら新体制により4月9日復活

後月曜日(14時、同院諸聖徒礼拝堂で行なわれる)新任教員就任式兼催。新入学者は4人で、東京教区からは関口美佐穂(聖救主)、塚田重太郎(目白)さん。

大斎プログラム5
外濠教会グループ 聖木曜日聖餐制定記念聖餐式・洗足式
＝4月5日(木)19時、目白聖公会。説教＝柳時京司祭(立教大学チャプレン)。

人事(4月1日付)
関 正勝司祭
先の聖路加国際病院関連施設の任命を撤回、聖アンデレ主教座聖堂付任命
植田仁太郎主教
聖路加国際病院聖ルカ礼拝堂管理牧師任命

【学びと働きから】36

今、教育の場で…

昨年までの3年間、都立戸山高校PTA会長や都立高校PTA連合会副会長の立場を通じて教育の現場に接する機会が与えられました。東京都では数年前から「都立高校改革」が進められています。改革には評価すべき点も多いのですが、一方で都教育委員会による管理が強化され、教育の現場が大混乱しています。校長や教師は提出書類が増えて極めて忙しく、健康を害する教師も増えました。そして、大きな問題は最も大切な子どもたちへの関わりがどんどん希薄になっていることです。教育改革は法律や制度を変え

れば解決できる問題ではありません。改定前の教育基本法の前文には…この理想の実現は根本において教育の力にまつべきものである。」とありました。教育は、上意下達ではなく、学校・生徒・保護者の信頼関係をベースに十分議論し、地域・社会と共に継続的に取り組むべき課題である、それが3年間の実感でした。

管理強化の下に「基本的人権」も軽視され、「思想・良心の自由」の危機が教育現場を閉塞化しています。その象徴が「式典における国旗・国歌の強制」です。教師個々の「自由」の問題であるだけでなく、生徒は「立って歌わなければ、先生が処分される。」と考えるようになって

ています。保護者の起立調査が行われたこともあります。国歌斉唱時に「不起立」という意思表示をしても処分されないことを求めた「予防訴訟裁判」では、昨年9月に東京地裁で画期的な判決が出ました。

クリスチャンとして「国旗・国歌の強制」に反対する教師が何人もいます。聖公会の信徒の方でも信仰を理由に「君が代」伴奏を拒否し、処分された方がいます。「国旗・国歌」に対する考え方は多様ですが、苦しむ方々のために祈り、一助になりたいというのは自然な発想であり、信徒としてひとつの使命であると考えます。

森田信也
(東京聖三一教会信徒)